



ARTIST NO KOSODATE? / Interview / No.09

ARTIST
NO
KOSODATE?

アーティスト
の
子育て

01 住まい 神奈川県

02 年齢 40代

03 性別 女性

04 子どもの数 2人

05 子どもの年齢 11歳、6歳

06 作家活動以外に仕事をされている方は、
可能な範囲でお仕事の内容を教えてください。

作家活動以外に特に定職には就いていないのですが、今年から、娘が通っている保育園で造形を教えています。私がアーティストであるというのを知って、保育園からお声がけいただきました。子どもたちの作りたいという意欲が高まったタイミングにあわせて、不定期で週1回くらい教室を開催しています。

07 保育園・幼稚園などの保育サービスを利用していますか？
または過去に利用しましたか？☒ はい ☐ いいえ

08 (07)が「はい」の場合、預け先は？

☒ 保育園 ☒ 通常保育 ☒ 一時保育 ☒ 認可 ☒ 認可外 ☐ 幼稚園 ☐ ファミリーサポートセンター
☐ その他

上の子は2歳から、下の子は0歳から保育園の通常保育を利用しています。

待機児童問題は我が家にとっても大きな問題で、特に私は会社員ではなく自営業者なので預けにくく、上の子は0～1歳まで一時保育を利用しました。産前産後をまたいで作家業が忙しいタイミングで毎日必死でしたが、4月入園に備えて準備して、第1希望に通ったのでよかったです。上の子の入園申請の時期に、たまたま夫が単身赴任だったのが大きかったかもしれません。あと、当時私の仕事も予定が立て込んでいたので、長時間の労働をしている実態が申請できました。会社員の夫によく言われるんですが、制作活動は本当に長時間労働で、もし会社に勤めていたらブラック企業です（笑）。

09 お子さんをもった後、作品制作時間はどう捻出していますか？〈複数回答可〉

☒ 保育園や学校に行っている間 ☐ 睡眠時間を削る ☒ 子どもが寝てから ☐ 早朝 ☒ 実家・親に預ける
☒ 配偶者に預ける ☐ 仕事の合間 ☐ 仕事が休みの日 ☒ 捻出できない ☒ その他

子どもが小さかった頃は、実質子どもが寝ている間しか作業できず、子どもが寝ないと焦り、子どもと寝落ちしてしまうと自己嫌悪に陥りました。夫が多忙で毎日午前様だったのでそれに対しても不満が募っていました。「その他」は、ママ友に預けます。日頃から預けたり預かったりする関係の友達は何組かいます。特にアーティストではありません。現在、生まれ育った場所で住んでいますが、私は日本の美大ではなくオーストラリアの大学で学んだので、地元のアーティストコミュニティとのつながりが希薄なんです。ただ、実家が近いのは子ども

を預けられるのでとても便利です。

オーストラリアの子育て事情はいかがでしたか？

オーストラリアにいた時は子育てをしていなかったのですが、詳しくはわかりません。でも、オーストラリアはアーティストに対するサポートが圧倒的に充実しています。日本とは比べようもないほど根本的に違います。

オーストラリアでは政府の文化芸術機関にアーティスト活動を申請をすると、生活費も含めた助成金が支払われます。もちろん支給対象は選別されて、全員に支払われるわけではありませんが、採択されれば額は桁が違って手厚いです。私も日本に帰ってきてから知ったのですが、オーストラリアは本当にアーティスト活動がしやすい国です。ヨーロッパに関しても、住んだ人の話を聞くと日本よりも環境がいいんだろうなというのが分かります。日本はそもそも国が文化にかけるお金が少なすぎるんですね。アーティストに対する認知度や位置づけも低いんです。日本ではアーティスト業はほとんど職業とみなされず、趣味でやっているんでしょ、好きでやっているんだから経済的な苦勞は厭わないんでしょ、っていう感じの扱いでしかありません。一般の人のアートの見方も全然違ってきます。たとえば絵画であれば、オーストラリアは家に白い壁がたくさんあるという事情もあって、一般の人がギャラリーやマーケットで日常的に買うんですね。有名な画家が描いたからではなく、自分がこの絵が好きだから買うという感覚が浸透しています。だからオーストラリアでは、マーケットに作品を出すと、売れてちゃんとお金になるんです。

10 一日のうちで、①育児にかかる時間、②作家活動にかかる時間、③作家活動以外の仕事にかかる時間は、お子さんをもつ前と現在とではどう変わりましたか？ およその時間を教えてください。

① 育児：0時間 → 8時間

② 作家：16時間 → 4～12時間

③ ~~仕事~~

私の場合、展示するとなると一定期間現地に滞在してインスタレーションを制作することが多いので、定職には就きにくく、2年間アルバイトで造形を教えていたことはありますが、作家活動以外の仕事に就いたことはほとんどありません。

地方の展示にはお子さんを連れて行かれたのですか？

はい。生後6カ月の下の子を連れて四国に行ったことがあります。制作と設置作業で1～2カ月の滞在になるので、マンスリーマンションを借りて住みました。まずは認可外の保育園探しから始まるのですが、それが本当に大変で、数か月という単位で子どもを預かってもらえるところがなかなかなくて、何か所も断られました。ようやく見つかったところは、場末のマンションの一室でやっている保育所で、ペットショップみたいに子どもを入れる柵が設置されていてぎょっとしたんですが、仕方がないから預けることにしました。でも、やっぱり子どもの様子がちょっと変になったのでこれはやばいと思ってやめて、実母に頼んで子守りに来てもらいました。その話を現地の人にしたら、主催者の関係者のツテで違うところに預かってもらうことができたので最終的にはよかったのですが、毎回子どもの預け先には悩まされます。

京都で展示をした時も、2歳前でまだおっぱいを飲んでる子どもを連れて行きました。マンスリーマンションを借りて1か月ほど滞在しましたが、預かってもらえる保育所が見つからなかったため、結局実母に来てもらって日中子どもの世話をしてもらいました。

滞在中の保育料は自分で払っています。一人で滞在する分には、安いビジネスホテルにベッドが1台あるだけで宿泊先として充分なのですが、子ども（特に赤ちゃん）同伴となると、畳の方が安全です。でも、和室は一人用の部屋が少なく宿泊費が多目にかかるので、結局いただいた報酬は使い切ってしまうんです。

私の作品はいろんな人に関わってもらって制作することが多くて、作業場に人の出入りがあるんですね。それをいいことに、子どもを作業場に置いておくと、誰かしらが気にして見ていてくれるし、とてもいいコミュニケー

ションが生まれます。うどん屋のおばちゃん一家が子どもを預かってくれたこともありましたが、地方でのアーティスト・イン・レジデンスや展示は、その地域住民といかに交流するかというのも一つの目的だったりするので、子どもがいるだけで助けられた部分も多いです。

最初から子ども連れで制作しようと計画したというよりは、たまたまそうなったという流れで、それ以外手段がなかったんです。子どもがいていつながりや体験ができたから、大変だけど好奇心が勝って地方に出かけていました。あと、当時は体力があったんでしょうね。今は無理です（笑）。

あとは意地もあったかな。ある島で制作した時は、展覧会開催2年前くらいにオファーが来てお引き受けしていたんですが、その後妊娠が分かって主催者に伝えたところ、子どもがいたらできないんじゃないかというような反応が返ってきました。子どもが病気になってしまったらどうするの、島なのですからすぐに病院に連れて行ってあげられないよなどと心配するんですね。もっともではあるんですが、まだまだ男社会なんだなと思いましたね。産んだからには女性のあたなが面倒みるんでしょ、という社会通念がある。結局、そこでの展示は実現しませんでした。

制作と子育ての二者択一で、子どもの面倒みなきゃいけないでしょってことを言われちゃったら、いつまでたっても制作できないと思うんですよ。実際、例えば絵画のように家の中で作業できる作品ならまだやりようはあるのかもしれませんが、現場で制作するインスタレーションをやっている子育て中のお母さんアーティストっていうのは、私が知らないだけかもしれませんがそんなに多くはないと思います。でも母親にばかり育児を任せるのは、なんかおかしいなと感じました。

11 お子さんをもった後、作品制作の環境(場所)は変わりましたか？

家と現場であることは変わりませんが、子どもたちの年齢を考えると、遠方のレジデンスには参加できないと思って、現場が地方ではなく近場にちょっとずつ変わってきました。

数年前に地元の芸術祭に参加した際には、子どもがいる環境で他の人にもかかわってもらって制作するという巻き込み型でやりました。地元だからよりスムーズにできたのではないかと思います。作業場所兼展示場所となるスペースを提供してくださる方がいて、その後も制作や展示の場所として引き続き使わせてもらっていて、コミュニティづくりに役立っています。

12 お子さんの存在が作品に影響し、作風や扱う素材、制作方法などは変わりましたか？

はい。インスタレーションは展示が終わったらゴミになってしまいます。作品保管場所も自宅以外には特になかったので気になっていたのですが、子どもが生まれたことでもっと未来を見るようになり、できるだけ自然に還る素材を使いたいと思うようになりました。

子どもが未就学児の時は、先ほどお話ししたように、子連れで地方に行くこともできました。でも、小学校にあがると学校に通わせなければいけないので今は無理ですね。私の中では子育ても大事なので、最近はアーティスト・イン・レジデンスに興味がなくなってきました。

それから、これまでインスタレーションを制作してきましたが、去年、地元で知り合った方のご縁で絵本作りに着手し始めました。少しずつ変化しています。

13 コロナ禍が子育て中の制作に何か影響を及ぼしましたか？

はい。家族が少しずつ時間をおいてコロナにかかったので、結局3回くらい自宅待機をしました。展示は会期が決まっているので、焦りましたね。準備の間はまだなんとかなるけれど、展示作業の日に出外できないとなるとたくさんの人に迷惑をかけるわけで、自分の体調だけでなく家族の体調も気にしていました。子どもにはかわいそうでしたが、展示の前の数日間は、万一の場合も濃厚接触者にならないよう、一人ちょっと空間が違うところで食事をしました。

14 子育て中の制作において、どのような工夫をしていますか？

子どもが生まれる前から、いろんな人の手を借りながら制作するというスタイルでしたが、そこに子どもも巻き込んでいくというのが制作を続けるにはよかったかもしれません。

15 子育て中の制作について身近に相談できるアーティスト仲間等はいいますか？

クラフト系の小型の作品を作っている作家さんとはよく話しますが、インスタレーション作品を手掛けている子育て中の作家さんは身近にはいないので、どうしているのか聞いてみたいです。

16 今現在、作家活動をするとしたら、どのようなことをやってみたいですか。

☐ リサーチ ☐ 制作 ☐ 展示 ☐ ワークショップ ☐ アーティスト・イン・レジデンス ☐ その他

そうですね、やってみたいことよりも、目の前にある課題を一生懸命こなすことで精一杯です。地元の芸術祭に携わり、数年かけてあるアートプロジェクトをずっとやってきたので、今決まっている制作や展示が終わったら、その後は一回クリアにしたいなと思っています。真っさらにしたら、また新しいことが始まるだろうと思います。

**17 作品制作を継続するためには何が必要だと考えますか？
特に優先順位の高いと思うものを2つ選択してください。**

☒ 家族の協力 ☐ ひとりの時間 ☒ 収入 ☐ 美術に関する仕事への就労 ☐ 仲間の存在 ☐ その他

地元のアートプロジェクトは、予算ゼロから始めてどこまでやれるのか興味があってやってきたんですが、蹟くのはやはりお金のことです。そこで、ショップをやろう、グッズを売ろうという風にいろいろ工夫して、結果トントンくらいだったので、初めてやってこれだけ出来たという達成感はあるものの、本当にたくさんの人の膨大な労力で成り立っています。だから、1回だけなら無理して開催できるかもしれませんが、お金がなければ続きません。皆が疲弊してしまいます。そういう意味で「収入」は大事です。行政が場所だけ与えて、予算はないけど何かアートプロジェクトをして欲しいというようなイベントが多々ありますが、お金がなくてもできるんだと思ってくれるなと言いたいです。

**18 FAS にどのようなサービス・支援・配慮があれば、
子育て中の作家活動がよりスムーズにいくと思いますか。**

自分が作家として展示する場合は、施設に子どもを連れて行けるような雰囲気があればそれで充分かなと思います。特別何かをしてくれなくても、ちょっと声かけてくれるだけで、親としては子連れでも許されるんだという気持ちになります。

あとは、商業施設に多いのですが、夜に作品を設置しなければいけないというタイトな搬入・搬出スケジュールだと厳しいですね。以前、ある商業施設で夜間設置しなければならなかったのですが、第二子の出産が重なって、私は入院中に制作していました。設置作業は日中働いている夫が代わりに夜中に行ってくれました。

お客さんとして施設を利用する場合、美術館に子どもと一緒にいくとちゃんとは見られないので、託児サービスがあれば、ほんの10分とかでも助かるのかなと思います。子どもは美術館に行くのが退屈しちゃうので、行きたがりません。そこにちょっとお絵描きしたり遊べたりするスペースがあれば違うかなと思います。

19 お子さんの手が離れたら、どのように活動をしていきたいですか？



長期的な計画を立てるタイプではないので、もちろん作りたいですけど、どういう形になるかは分かりませんね。